

駒井ハルテック技報創刊にあたって

代表取締役社長

須賀 安生



去る3月11日、わが国は未曾有の東日本大震災に襲われ、甚大な被害に見舞われました。お見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧を願っております。

今回の震災においては、わが社も関係会社の東北鉄骨橋梁欄が被災しましたが、関係者の献身的な努力により、7月度からの操業再開をすることができました。お客様はじめ皆様からのあたたかいご支援に対し、心より御礼を申し上げます。

また震災直後は、各方面からの道路復旧の緊急要請に対応し、被災橋梁の調査・点検に全力を尽くしました。今後も、本格復旧・復興に向けて鋼構造物の専門企業として、社会的責任を果たしてまいります。

さて、昨年10月1日、駒井鉄工株式会社と株式会社ハルテックは合併し、株式会社駒井ハルテックとしてスタート致しましたが、このたび、合併一周年を迎えるにあたり「駒井ハルテック技報 Vol.1 2011」を発刊致します。

2社がこれまで永年に亘り培ってきた技術をしっかり継承統合し、一層発展させるべく力強い歩みを進めます。

本号は、橋梁分野では海上でのフローティングクレーンにより大ブロック架設した長崎県伊王島大橋や、幹線道路上に5回にわたりブロック架設した東京都大井ジャンクション、ケーブルエレクションで施工したニールセンローゼ形式の基幹農林道大銀杏橋など8件の報告、更にランガー形式の橋梁の耐震ブレースを使用した耐震補強工事、京都府における吊橋の解体工事、合成床版に関連した報告、最近の開発案件の紹介などを掲載しました。

鉄構分野では、東京スカイツリー®の製作、およびノンダイアフラム形式柱梁接合部の研究について報告しています。

風力発電分野では、独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)からの委託研究である「風車音低減対策」、更に風車メキシコプロジェクトについて報告します。地球環境問題に対応することは、21世紀の建設の世界において、最大の課題です。自ら風力発電など環境事業を手がけるものとして、構造物の建設にあたって持続可能社会を目指し、長寿命、自然との共生、省エネルギー、省資源、循環など社会から求められている要請に応えるべく、各分野の技術の連携をはかり、時代の画期となるような技術革新を達成するために全力を尽くしたいと考えております。

この数年私達は、492mの高さを誇る上海環球金融中心、高さ634mの東京スカイツリー、新東名高速道路、羽田D滑走路など数々のプロジェクトに参加することができました。当社の経営理念であります「高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する」ことを目指し、これからも努力を続けます。

皆様のご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

なお、創刊号の発刊にあたり、日頃親しくご指導をいただいております京都大学名誉教授渡邊英一先生より、ご多忙の中、鋼構造物の専門企業として根幹にかかわるテーマである構造物の安全性についての論説をいただきました。心より御礼を申し上げます。